

【基本の仮説】

学級の実態に応じた明確な指導観に基づく授業づくりをすることで、ねらいに迫る授業展開ができ、豊かな心を育みたくましく生きる力の土台を築くことができるのではないだろうか。

【具体的な仮説と研究内容】

仮説1

導入において、道徳的価値への意識付けや学習テーマの設定を工夫することにより、考える内容が明らかになり主体的に学習する意欲を高めることができるであろう。

仮説2

展開前半において、発問の工夫を生かした学習活動を行うことにより、物事を多面的・多角的に捉える考えを引き出し道徳的諸価値や自己の生き方について思考を深めることができるであろう。

仮説3

展開後半や終末の工夫を図ることにより、教材から離れ、道徳的価値を振り返りながら主体的に自己の生き方を考え、道徳的価値の内面化や実践意欲を高めることができるであろう。

研究内容1

- 導入の工夫
 - ・学習テーマの効果的な扱い方
 - ・問題意識をもたせる工夫
 - ・自分事として捉えさせる工夫
 - ・終末と連動させる工夫

研究内容2

- ねらいを意識した授業づくりの工夫
 - ・発問や問い返しの吟味
 - ・道徳性の諸様相（判断力、心情、実践意欲と態度）に合わせた展開
- 多面的、多角的な考えを引き出す工夫
 - ・話し合い活動の工夫
 - ・書く活動の充実
 - ・効果的な板書の工夫

研究内容3

- 展開後半の工夫
 - ・道徳的価値について見つめ直す工夫
 - ・自己を見つめ直す工夫
- 終末の工夫

明確な指導観に基づく授業

【側面から支える手立て】

- ◎信頼関係を基盤とした学級経営（話し合う、聞き合う）
- ◎言語活動の充実
- ◎他教科・行事で行う道徳教育（別葉の活用）
- ◎道徳教育に関する情報の発信（学級通信、懇談等）
- ◎環境づくり（掲示等）
- ◎道徳コーナーの工夫
- ◎ワークシートへのコメント